2026年11月13日

各　　位

会 社 名　　株式会社宮入バルブ製作所
代 表 者　　代表取締役社長　西田　憲司
（コード番号　6495）
問合せ先　　経営管理本部経理部長　井上　洋一
（TEL　03－3535－5572）

2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2026年５月13日に公表いたしました2027年３月期第２四半期（中間期）の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1.　2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想値と実績値との差異
（2026年４月１日～2026年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	3,500	55	45	35	0.73
実　績　値　（B）	4,234	56	34	16	0.34
増　減　額　（B－A）	734	1	△10	△18	
増　減　率　（%）	21.0%	3.0%	△24.0%	△52.2%	
（ご参考）前期第２四半期実績（2026年３月期第２四半期）	3,214	45	39	20	0.42

2.　差異の理由

売上高については、主力のＬＰガス容器用バルブをはじめとする黄銅弁関連製品、設備用および車載用、船舶用など鉄鋼弁関連製品が増加いたしました。また、作業屑の売上高についても、工場の稼働率が上昇したことと価格が上昇したことにより増加となりました。

損益面では、製品商品売上高が大幅に増加した一方で、黄銅材価格の高騰が続いていることやその他資材価格の高騰、および全般的な物価高による諸経費の上昇があり収益が圧迫されました。第１四半期には製品値上げが奏功し業績が改善しましたが、第２四半期においては黄銅材価格がさらに上昇したため、継続的な経費削減や生産性向上などによる原価低減に努めましたが、値上げの実施が後ろ倒しになった製品もあり、もう一段の値上げ効果が下期にずれ込むことから、当中間会計期間の営業利益は56百万円に留まりました。

以上により、売上高は増加いたしましたが、今後の設備増強に向けた資金調達に着手しましたので新株予約権発行費の計上などもあり、中間純利益は予想を下回りました。引き続き経費削減

や生産性の向上に努めてまいります。
なお、現時点における通期業績予想および配当予想に変更はありません。

※ 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき算定したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想値と異なる可能性があります。

以　上